

秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田市山王中島町1-1
TEL : 018-865-1171
FAX : 018-824-1799
E-mail : sgccn002@mail2.pref.akita.jp
編集担当：社会教育アドバイザー



にじいろ 虹色

「心の遺伝子」

NHK のテレビ放送で『心の遺伝子』という番組を視聴しました。東京生まれ東京育ちの医師鎌田實氏が、長野県諏訪市の病院に勤務し、小林一江さんのいう地域の人に出会いました。小林さんは、地域の人と面識のない鎌田医師を地域住民に引き合わせてくれました。鎌田医師は、信頼している小林さんから、患者の家族や本人の思いを大切にしたい医療が求められることを聞かされ、心を込めて地域医療に励むようになりました。そして、厳しい経営状態の病院を立て直し、地域に頼りにされる病院に生まれ変わりました。その後、後輩にも地域医療を引き継ぎました。不治の病に倒れ諦めかけた男性が、長年にわたって鎌田医師の診療を受け続けて 100 歳間近にまで延命し、笑顔で往診の鎌田医師を迎えている様子が放映されました。信頼が、生きる力となり、医師と患者の充実した人生を導き出していました。

『心の遺伝子』という言葉が、強く心に響きました。人と人の『心の遺伝子』は、共感し合う人から人へと伝えられていくものようです。『心の遺伝子』を受け取ったり伝えたりできるような生き方をしたいものです。

地域コーディネーター研修会

学校支援ボランティア、ますます盛ん！



【事例紹介】

平成 22 年度第 1 回学校支援地域本部「地域コーディネーター研修会」が、6 月 9 日に県生涯学習センターで開催されました。

秋田県学校支援地域本部事業は、今年度で 3 年目を迎え、平成 22 年度は全県で 44 本部が設置され、小学校 53 校、中学校 16 校、特別支援学校 5 校の 76 校が取り組んでおります。

(6 月 9 日現在)

研修会では、たくさんの充実した活動の中から、3 校の事例が紹介されました。大館市立城西小学校地域コーディネーター江野由美子さんと、石川ひろみさんからは、「城西コミュニティ・スクール地域委員会」との深いつながりをもちながら年間計画の作成、当日の具体的な実施要項を作成するなど、先進的な活動の様子が紹介されました。

男鹿市立北陽小学校の地域コーディネーターの浅野浩子さんからは、図書室環境の充実を中軸に据えた支援活動が紹介されました。

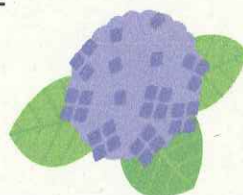
大仙市立利和野小学校地域コーディネーターの新谷嬢子さんからは、ボランティアグループ「つながりサポーター」の様々な活動が紹介されました。

紫陽花や大恩受けし師の旧居
恬として我は我なり破れ傘
文体はモノクロよけれリラの花

武藤

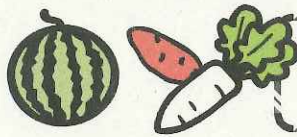
四郎

作



学校支援のボランティア活動は全県に広がり、環境整備面、安全面、学習や体験活動の充実など、子どもたちの安全や学習に大きく寄与していることが分かりました。そして、子どもたちの学力の向上にも結びついているとのうれしいお話もありました。ボランティアの方々の喜びの声も多かったようです。このような成果をあげる影には、やはり、地域コーディネーターの努力と創意工夫があったようです。地域コーディネーターの存在と活躍が、学校・家庭・地域連携の充実の鍵を握っているように思います。

学校支援地域本部事業は、おおむねよい方向に進んでおりますが、学校の理解がもう少しほしいとの声もありました。地域の実情に合わせて活動は、「それぞれ違ってみんないい」活動状況なのですが、さらなる充実のためには、学校との共通理解が必要だと語っていました。



「グリーン・ツーリズムって、なに？」



グリーン・ツーリズムとは、農山村の「豊かな自然」「美しい景色」「ゆとりある生活」など、すばらしい「宝もの」を活かし、都市に住む方々との交流を深めるとともに、農山村に住む住民自らが交流活動を楽しみ、豊かで元気のある「むらづくり」を進めようとする取り組みです。都市と農山村、消費者と生産者が「心の通った交流」を通して互いに理解し合い、共生していく架け橋となるものです。

秋田県は、水と緑が美しい自然と豊かな食材があふれ、グリーン・ツーリズム活動には適している地域だと思います。「秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会（秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎内電話：018-829-5895）」では、ビギナー向けの講座を行ったり、情報を提供したり、開業したい人に「グリーン・ツーリズム花まるっ大学」を開いて開業をサポートしています。

秋田県内にも、グリーン・ツーリズムの活動に賛同し、農家民宿や農家&漁家レストランを経営したり、農業体験や自然体験を企画し人々を受け入れる事業を展開している方々がいます。すでに、50か所を超えています。ご家族や友達同士で出かけてみてはいかがでしょうか。子どもたちにも、田舎のよさを教え、子どもの中に、「からだまるごと体験」をたっぷりさせてあげたいものです。少子化が進む秋田県です。サケがふるさとの川に戻ってくるように、子どもたちがふるさとに戻りたいと思えるような体験をさせてあげたいと思っています。

第1回秋田県家庭教育担当者等研究協議会より

平成22年6月2日



講話 「今、行政に求められる家庭教育支援」
～地域の子どもや家庭・学校が元気になるために～
秋田県社会教育アドバイザー 小林 礼子氏

学校は、子どもに生きる力を付けるために日夜頑張っている。「学校は学習がメインである」ということを知った上で、学社連携を考えてほしい。

家庭教育はすべての教育の原点である。“親育ち”の学習の場が不足している。自分の子だけ育てばいいと思っっているとしたらそれは大間違いである。子どもは、友達と遊ぶ中で世の中の様々なことを学ぶ。乳幼児期からの教育の結果が、思春期に様々な現象で出てくる。モンスターペアレントになるなかれ！

学校は学校で、行政は行政でという時代は終わった。学校訪問で学社連携・融合の進捗度を調査した。学校・教育委員会共に良好だったのは、「学校と地域住民との交流活動」「子どもをはぐくむ地域支援体制づくり」で、課題は、「親や各年代層に応じた学習機会の充実」である。将来、地域を背負っていく若者世代、特に高校生に、活動を通して地域の一住民としての意識をもたせたいものである。

「お父さん、出番です！」

父親と子どものコミュニケーション不足が心配されている。各単位PTAを母体として活動グループの立ち上げを支援し、経費を助成すると説明があった。（3万円を基準とする）グループの人数や名称、活動内容は自由。父親が主体になって参加することが条件。助成は、平成22年度限定。

これは、秋田県教育委員会「父親の参画による地域教育力活性化事業」による。

詳細は下記にどうぞ。

秋田県PTA連合会

TEL 018-864-8975

FAX 018-824-7935

